



讀者と記者

代理部は社會の要求
時や場所の異なる記者の要求
記者の要求は、時や場所の異なるものである。

次期大統領選挙に

メ氏の出馬説は嘘報

目下非常時だ!! 選挙を論ず

次期大統領候補者として現在南大河州に閉居せる共和黨元老ボル
メ氏は出馬する意向があるが、目下非常時だ!! 選挙を論ず

非難の聲高き

移民豫備法案

修正案提出

今回の移民豫備法案はあまりに苛酷に過ぎる為
各方面から盛んに非難せられて、右に對し
南大河州大蔵長官コロール氏は左記の如き修正案
を提出すると発表した

意見報告再延期

問題の慎重を期し再び

政府へ参考資料要求

「二十三日」政府提案にか
共産黨事務局長の意見報告
政府は、共産黨事務局長の意見報告を延期し、問題の慎重を期し、再び政府へ参考資料を要求した。

英國の人口減少

三ヶ月間に

五千余名

【倫敦廿三日電】英國に於ける最近
の調査に依り、本年一月から三
月迄の三ヶ月間に、四、四七名の
減少を示し、本期間内に於ける出
生に對し、死亡者数は、五、五七
九、男一、八六六名の増加であ

戰場と化した

聖地エルサレム

英の鎮撫も空しく

形勢益々悪化

【エルサレム廿三日】キリストの
聖地として有名なエルサレムに於
て、数ヶ月前より續いてあるアラビ
ヤ人對ユダヤ人の抗争は、激しく
なる傾向を呈してゐる。英領政府
府ではユダヤ人保護のため、流石
な派遣隊を編成し、努力してゐるが
事態は益々悪化し、緊張する空氣は
次第に高まり、頗る危険の狀態に立
ち上つてゐる。これが去る廿一日
の如きはアラビヤ人等大學に英
國派遣隊を襲撃した。英領政府は
怒り、以後は言はれた大規模な軍
に對して、同日早朝
に始り、翌日まで、サマリア
山間に進入した武裝隊のアラビヤ
人の一隊は、頑強な抵抗をなす
氣概を示してゐる。派遣隊は機
關銃及び飛行機を使用するに至つ
た。アラビヤ新聞によれば、死者
の数は報じてないが、相當の數に

移轉廣告

左記の所に移轉仕前通り聖市及郊外皆様の御家庭へ助
産と出産前後の手方法の御相談に應じます
又小家族手不足の御家庭の御相談、二名はいつでも御預り
いたします
場所はモッカの入口でコンテ街に極く近くの閑静な處です
聖市ルアオドリツコ・メンデス三番
(レアマッカの入口)
産婆 松岡タミノ
専知諸姉へ

池上一郎氏
サンパウロ・シネマの
用事あるが御歸聖を待つ

苗木種々
Escola Remington
Annexa a Escola Pratica de Contabilidade D. Pedro II

GLORIA
貴方の自動車一切
御用は南最大にして其最
も完備せるグロリア街
のポストに出して下さい

味の素
日本料理を
より美味しく
日本食器で召上れ

入江洋服店主
御家庭に一刻も欠がされ
ませんミシン機は?

伊藤商會
イムベリアルミシン
聖市郵箱三三三

教師招聘
夫婦者にして教育に經驗有る人
成る可く當國教師の免狀有る者
教員住宅の設備あり

在伯邦人の活躍振りを 内地の常設館で公開

全發聲映畫に撮影のため 來月一日シネマ班着伯

各種の施設をアブラワルにほごし 経済的に日伯間の距離を短縮する...

本年の埋葬數四十

疑 黃熱病は十一名

針小棒大に傳へられた

アリアンサの熱病

本年初め突如アリアンサ 移住地方面に發生した...

命の殿堂」建設に

力強い母國の援助

朝野の名士三百名に

日伯協會が呼びかく

日本病院建設資金集運動は昔々好成績を挙げたが...

伯國生れの旅券問題

歸國者に大打撃

出生届をなさぬ者が

多い實状をどうする

既報の如く、アブラワルで生れた者 頭上、何となく...

拔本塞源過去を流し

市日會を協力強化!!

昨夜強化委員會生る

顔役廿九名申合書に署名し

アリアンサ三區小會長の出席 日伯協会の決定、なほ歸國後四邦字...



奥地視察中の 田崎學長

明日歸聖の筈

サン・パウロ市に強力な自治機關 を設立しようとする...

川)カンパニオン、岡島、香山、 野村、坂井、安東、金城、杉...

開業御披露

謹啓各位益々御清 榮の段奉賀上候

陳者私事今度左記 の場所にて雜貨店

御引立願上候

バウル市ツビ街七六四

コスモス雜貨店

藤社文一

新賣出地

位置 第一期賣出し隣接地、 トツパン市街地より五百メー...

面積 五百アルケール

支拂 五百アルケールより一コント百...

地質 マサツベブレト萬作向

地権 絶體確實なるは周知の

地如し

既入植者は六十家族にて學校敷

地として相當の面積保存あり

マリリア市サンルイス街八二番

荒木地事務所

婦人俱樂部六月號

着荷!!

大附録無代贈呈

洋裁和裁

夏の刺繍物

の作り方

更には口給大掛帳も、讀物

も、實行記事も、小説も

素晴しくよく出来ました

どうぞ六月號から、毎月

日本一の婦人雜誌「婦人

俱樂部」を御愛讀下さい

當地書店一同

